

2026年1月30日

東急不動産株式会社

東急不動産×Jリーグが気候変動問題に臨む

Jリーグのシーズン移行から気候変動問題を考える！

「未来へのキックオフ～Jリーグと考える気候変動～by 東急不動産」開催

東急不動産株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：星野 浩明）とJリーグ（チェアマン：野々村芳和）は、2026年1月25日（日）、渋谷ストリームホールにて『未来へのキックオフ～Jリーグと考える気候変動～ Presented by 東急不動産』を開催いたしました。

当日は、Jリーグ特任理事の内田篤人さん、環境教育アニメ「FUTURE KID TAKARA」企画プロデューサーの堅達京子さん、お笑いコンビ・ぺこぱのお二人らが登壇。気候変動がサッカーに与える深刻な影響や、両者が「気候アクションパートナー」として推進する環境活動について、トークを繰り広げました。



■ 気候アクションパートナーとは：再エネ×サッカーで地域を元気に

ぺこぱのお二人の開会宣言から始まった発表会。シュウペイさんは「サッカーとまちづくり」という一見異なるフィールドに立つJリーグと東急不動産の共通の思いについて『サッカーと再エネにより気候変動問題の解決と地域活性化を目指す』と紹介。松陰寺さんは、気候変動問題について「やっぱり、猛暑。僕が監督やっている草野球のチームも、暑い時は、僕はもれなく DH（指名打者制）です。守備はやらない。それくらい昼間が暑いですね。」と応じ、身近な気候変動問題への関心を示しました。



続いて、ぺこぱのお二人のお声がけで、Jリーグ執行役員の辻井隆行さんと、東急不動産サステナビリティ推進部長の松本恵が登壇。両者がパートナーシップを結んだ背景について説明しました。Jリーグと東急不動産ではこれまでも、両者関係者が講師となり、全国各地の小学校・高学年を対象に環境教育授業を実施してきました。

Jリーグの辻井さんは、Jリーグが気候変動に取り組む背景についても詳しく解説しました。「2018年に西日本豪雨という大きな災害が起きましたが、それ以降台風の激甚化や線状降水帯の発生により、中止になる試合数が約5倍に増えました。それから、Jリーグに限らず、日本全体で熱中症による救急車で緊急搬送も起きてしまっています。」と述べました。また、猛暑による選手のパフォーマンス低下について具体的なデータを示しながら現状を説明。「選手への影響も大きく出ているので、いわゆる“適応”だけではなく、気候変動そのものを止めていく“緩和”に取り組んでいかないとサッカーの未来を守れない。」と、危機感をにじませました。



東急不動産の松本は、「経済と社会を支えるベースになっている基盤が、環境であるという思いから、東急不動産は、創業時から環境課題に取り組んできました。」と紹介。また、「渋谷に限らず、日本全国で再生可能エネルギーを作っており、東急不動産の建物のすべて(※1)が再エネを使っています。」と、国内事業会社(※2)として初めて、自社施設の使用電力をすべて再生可能エネルギーに切り替えたことについて紹介しました。「Jリーグは、地域に愛されるクラブがあり、街づくりは、地域に愛されたい、という地域に根差した活動をしているところに親和性があるのと、猛暑などの環境への取り組みも同じ思いがあります。」と、パートナーシップの意義を語りました。



両者は今後も再生可能エネルギーの普及や環境教育をはじめとする取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に向けて、環境に対する啓発活動に取り組んでまいります。

※1 一部案件を除く

※2 金融機関を除く

■ 内田篤人さんが語る“暑さとの戦い”

イベント後半のスペシャルトークセッションには、Jリーグ特任理事の内田篤人さんと、環境教育アニメ「FUTURE KID TAKARA」企画プロデューサーの堅達京子さんが加わりました。

元日本代表DFとして、鹿島アントラーズやドイツ・シャルケ04で活躍した内田さん。日本とドイツという異なる環境でプレーした経験から、気候がサッカーに与える影響について語りました。

「サッカーは、プレーの強度が高いのですが、夏場、日本では、なるべく落として戦おうとする、要するにサボりながらうまく戦おうとする夏場がシーズン真ん中に来るので、世界で必要とされる強度と僕らがJリーグでやろうと考えているプレーとギャップが出来てしまう。」と、現役時代を振り返る内田さん。「相手よりうまく動かずに勝とうとしてしまう、それは本当に目指しているもの(プレー)か?」と、トップ選手ならではのリアルな言葉で説明しました。



また、シーズン移行後の日本のサッカー界について問われた内田さんは、「ヨーロッパと同じシーズン制になることで、移籍しやすくなる。日本から出ていく選手も日本に入ってくる選手もかなり増えてくると思います。」とリーグ自体の活性化への期待を込めました。

この発言を受け、MCの松陰寺さんは「どのスポーツでも『酷暑』が問題になっている中、Jリーグがこういう取り組みを始めたことが素晴らしいと思いますね。いろんなスポーツでもこういう動きが今後広がっていくのかもしれませんがね。」とコメント。スポーツ界全体への波及効果にも言及しました。



また、NHK エンタープライズの堅達京子さんは、気候変動の現状と将来予測について解説しました。「2024年は産業革命前から初めて1.6°Cも上昇、去年2025年は1.47°C上昇し、ここ3年の平均は1.5°Cを超えています。人間活動による温室効果ガス排出が原因で温暖化していることには、疑う余地がないと数万人の科学者が断言しています。温暖化によって、日本全国どこでも複合災害が起きる可能性がある、そんな時代に突入しています。それどころか、温暖化が怖いのは、ひとつ悪いことが起こると、ドミノ倒しのように悪いことが起こる。ドミノは紅白歌合戦だけでいいと思います。だから、気温上昇を1.5°Cに抑えることが、「地球のガードレール」「人類の防衛ライン」です。この10年が勝負です。」と訴えました。堅達さんからの解説を受けて、MCの松陰寺さんは「地球の時を戻そう。」と宣言し、会場が盛り上がりました。

■ 会場参加型「気候アクションクイズ」で盛り上がる

イベント中盤には、来場者・配信視聴者が参加できる「気候アクションクイズ」を実施。スマートフォンを使ってリアルタイムで回答する形式で、会場は大いに盛り上がりました。

クイズでは、東急不動産の環境取り組みやJリーグの気候アクションに関する問題が出題されました。「蓼科の森林保全」「パラオの海洋保護」「勝浦のブルーカーボン」「ソーラーシェアリング」「水平リサイクル」など、両者の具体的な活動を楽しみながら学べる内容となりました。例えば、「東急リゾートタウン蓼科の「ゴルフティー」はどんな素材でできているのでしょうか？」という問題では、「二酸化炭素」というまさかの正解に会場が驚いている様子でした。シュウペイさんが「CO₂を固めて作ったものなので、最終的に『土に戻そう。』ということですね。」とコメントしました。



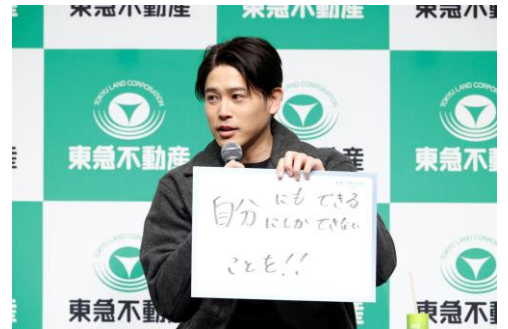
また、「Jリーグが推進する、農地の上に太陽光パネルを設置して農業と発電を両立させる取り組みの名称は？」という問題では、辻井さんが「サッカークラブが農業をやっていることも驚きですが、そのうえで発電までできるのは、今後、広がっていくといいなと思います。」とコメント。正解の「ソーラーシェアリング」が発表されると、堅達さんからは「日本の農地の約17%をソーラーシェアリングにするだけで、日本の電力を賄える試算もあるくらい可能性がすごく高い取り組みなので、これをJリーグさんがやるということに意味があると思います。」と「ソーラーシェアリング」の取り組みに期待をにじませました。

■ 内田篤人さん・松陰寺さんが「明日から始めるアクション」を宣言

イベントのクライマックスでは、内田さん・松陰寺さんのお二人がそれぞれ未来のために起こしていく「明日から始めるアクション宣言」をフリップに記入し、発表しました。

まず、内田さんが自身のアクション宣言を発表。「自分にもできる自分にしかできないことを！！」と宣言。「Jリーグに、地球に、皆さんに恩返しできること、自分にしかできないことを取り組んでいきたいなと思います。」とコメントし、会場からは大きな拍手が送られました。

松陰寺さんは「みどりを見る度に広めよう」と宣言。「日本だけじゃなく、もっと世界でこういった取り組みをひろげていけたらなと思います。」とコメントし、「スーツを緑にするのも悪くないだろう。」と笑いを誘いながらも、環境への意識を示しました。最後に、MCのシュウペイさんの「このステージをきっかけに、ひとつのチームとなって、よりよい未来へのアクションを一緒に続けられたらと思います。」という言葉でイベントを締めくくり、約1時間半にわたるプログラムは盛況のうちに幕を閉じました。



■ Jリーグの気候アクションについて

近年、気候変動の影響はスポーツ界にも深刻な影響を与えています。Jリーグでは、台風激甚化・線状降水帯等による試合中止数が2018年以降、2017年以前と比較して約5倍に増加。また、猛暑による選手のパフォーマンス低下や熱中症リスクの増大も課題となっており、2026/27シーズンからのシーズン移行を決定するなど、抜本的な対策に取り組んでいます。

Jリーグ気候アクションサイト：<https://www.jleague.jp/climateaction/>

■ 東急不動産の環境先進事業について

東急不動産は3つの環境重点課題を掲げています。脱炭素社会の実現に向けては、RE100を達成し、再生可能エネルギー事業「ReENE（リエネ）」を推進しています。循環型社会の構築では、ZEH・ZEB推進や廃棄物削減・リサイクル促進に取り組んでいます。生物多様性の保全では、自然共生サイト認定やネイチャーポジティブの実現を目指しています。代表的な取り組み事例として、広域渋谷圏の各事業拠点において積極的な都市緑化を進め、そこに住む生き物たちの中継拠点を担う「エコロジカルネットワーク」の形成に取り組んでいます。ネイチャーポジティブに貢献し、ウェルビーイングな緑化・生態系の保全活動を推進し、広域渋谷圏内の魅力向上につなげています。

① 脱炭素社会の実現に向けて

↳ ReENEによる再生可能エネルギーの普及推進

② 循環型社会の構築

↳ ZEH・ZEB推進

↳ 廃棄物削減・リサイクル促進

③ 生物多様性の保全

↳ 都市緑化による「エコロジカルネットワーク」の形成

↳ パラオの海洋生物の保護